

平成 29 年度

特定非営利活動法人 川崎市精神保健福祉家族会連合会 あやめ会

総会 記念講演 ご案内

抗精神病薬、本当にこれで良いのだろうか。

演 題 「本人の希望に沿った統合失調症の薬物療法」

講 師 **竹林 裕直 氏** (医療法人正慶会栗田病院、立教大学講師)

■日時 **平成 29 年 5 月 10 日(水) 15 時 10 分～16 時 30 分**

■場所 **エポックなかはら(川崎市総合福祉センター) 7 階**

(JR 武蔵中原駅 徒歩 1 分)



統合失調症の治療の中心に、抗精神病薬による薬物療法があります。しかし、その知識をもっていたとしても、実際は、薬の選択やその量について、「本当にこれで良いのだろうか」と何度も問いかける毎日ではないでしょうか？

薬物療法は、科学的な観点で議論されることが多く、精神療法や社会療法と比べて、本人の希望よりも主治医の裁量に依るところが大きくなる傾向があります。確かに、統合失調症の治療は、状況に対する認識の違いや社会機能の低下から、本人が望まない治療を判断しなければならないことがあります。しかし、それらの判断も本来であれば、他の医療行為と同じように、できる限り丁寧な説明と本人の同意で実施されるべきものであり、本人の希望が何よりも重要であることに変わりありません。

障害福祉の分野では、障害の程度(重さ)ではなく、必要性に応じた支援が展開されるようになってきました。医療の分野においても、尊厳死の問題をはじめとして、本人の自己決定が今まで以上に尊重されるようになってきました。今、求められている統合失調症の薬物療法とはどのようなものなのでしょう？本人の希望に沿った統合失調症の薬物療法について、皆様と一緒に考えたいと思います。



● 講師プロフィール

2001 年東京医科歯科大学医学部卒業。2008 年同大学院修了。医学博士。東京医科歯科大学附属病院、東京都多摩老人医療センターを経て、現在、医療法人正慶会栗田病院勤務、立教大学講師。

● 著 書

「統合失調症(インフォームドコンセントのための図説シリーズ)、丹羽真一編(医学ジャーナル社)の分担執筆、「精神保健福祉白書」(中央法規)精神科薬物療法の寄稿(2013～2015)、「パラダイム・ロスト:心のスティグマ克服、その理論と実践」(中央法規)の分担記、など。



お問い合わせ：

特定非営利活動法人 川崎市精神保健福祉家族会連合会 あやめ会

電話&FAX 044-813-4555 (月・金曜日)